

## 大型クラゲ洋上駆除の強化について

近年、大型クラゲが我が国周辺水域に大量に来遊し、日本各地で沿岸漁業に大きな被害をもたらしてきている。

これに対し、漁業関係者は、大型クラゲの洋上駆除対策に全力を尽くしてきたところであるが、漁業関係者自らの駆除作業は、極めて重労働で、非効率な作業であり、大きな負担を強いられている。

また、国においては、平成18年度から沖合洋上駆除事業として、底曳き網漁船を備船し、クラゲ駆除用に改良した網を曳いて、洋上駆除を進めてきたが、大型クラゲによる漁業被害は、軽減されていない状況にある。

大型クラゲは、東シナ海で発生した後、対馬暖流に乗って大型化しながら日本海を北上し、オホーツク海側に達する経路とともに、津軽海峡を通過して太平洋側に達する経路をたどりながら、関係道府県の漁業に大きな被害をもたらしている。

このことから、大型クラゲの発生する海域に近い九州から日本海西部沿岸海域における小型サイズ段階での大規模な徹底駆除を実施することがより効果的と考えられる。

幸い今年度は、今のところ日本周辺海域での分布はみられず、発生が少ないことが予測されているが、今後も昨年度のような大量発生が懸念されるため、大型クラゲの来遊による全国的な漁業被害の軽減に向け、次の対策を講じるよう国に求める。

- 1 中国・韓国との連携を強化し、大型クラゲ大量発生メカニズムを早期に解明し、抜本的な対策に資すること。
- 2 大型クラゲによる漁業被害が大幅に軽減されるよう、国が主体となり、発生初期における駆除対策の強化・充実を図ること。

- 3 大型クラゲの駆除をより効率的・効果的に行うため、民政支援活動として、自衛隊艦船及び航空機による大型クラゲ分布に関する情報提供等を行うとともに、大量発生の場合には、自衛隊出動による駆除も視野に入れた取組を行うこと。

平成22年8月25日

北海道知事 高橋はるみ

青森県知事 三村 申吾

岩手県知事 達増 拓也

秋田県知事 佐竹 敬久